

(1)再犯防止について感じていること等①

- どのように関わりをもてば良いか分からない。
- 本人が反省して、二度と犯罪を犯さないようにする必要がある。
- 個人情報取扱いに注意が必要なので、保護司との連携が難しい。
- 親代わりとなるような愛情をもって接する保護司の存在は大きい。
- 矯正施設の中で、「社会での生き方」「福祉サービス」等の情報を伝える過程で、なぜ犯罪を犯してしまったのか振り返る時間が必要。

(1)再犯防止について感じていること等②

- 本人が悪いが、周りの協力は必要。
- 取り残されがちな人たちに切れ目なく手を差し伸べられる支援が大切。
- 再犯防止の観点ではなく、生活支援として関わっている。
- 保護観察所や立ち直りサポートセンターなどの支援を受けている人とは関わりやすく、その後の支援も円滑だが、不起訴になった人などへの支援は難しい。
- いつまでもレッテルをはられ続けるのではなく、再出発しようとする人たちを受け入れる社会、環境の整備が必要。

(2)再犯を防止するのに必要だと思うこと①

- 犯罪者として見るのではなく、地域に住む人としていかに幸せに暮らしていけるかを考えること。
- 誰も一人にしない、置きざりにしないというメッセージを発信すること。
- 本人だけでなく、周囲の変化も必要。
- 矯正施設等での教育・相談体制の充実。
- 「助けて」と手をあげた人に、相談先をみんなで案内できる社会づくり。

(2)再犯を防止するのに必要だと思うこと②

- 重層的支援体制づくりや再犯防止の拠点づくり、相談体制の構築。
- その人を理解し、その人に合った支援をすること。
- 地域や関係機関の連携強化。（犯罪をした人への支援は縦割り）
- 児童・学生への教育と地域社会における周知・啓発、制度の周知。
- 相談相手（見守り）や居場所、役割（出番）。
- 福祉的な支援、住居・食事・就労支援。
- 協力雇用主や更生保護女性会員を増やす。保護司の確保。